

にじ 虹いろ

No.13



リレー題字：小林元久さん 絵：小林慶子さん、中島睦美さん、木下夏子さん

特集

- ◆ みんなで考え 力を合わせて
- ◆ のはら楽団 いざ始動！
- ◆ おとなの放課後クラブ
- ◆ 女取の泉
- ◆ その他

みんなで考え

力を合わせて

社会福祉法人 ハケ岳名水会

法人本部 本部長

小泉 晃彦

平成二十七年度が始まり三ヶ月が経ちました。昨年度は日野春學舎構想の取り組みや、のほら楽団の開所、グループホーム「プレステージ」の開始など今後に向けての新たな展開がスタートをした年でもありました。

さて、本年度は人事交流も始まり、今後に向けて様々な準備をしていく年になります。そのため、法人では新たな体制をスタートさせました。その一つが企画事業部の新設です。これは、日野春學舎構想をはじめ今年度から始まる海外支援など様々な企画や公益事業を取りまとめていく部署になります。また、法人の今後をみんなで検討していくために福祉事業部を設けました。大きな目的としては、一つの事業では解決出来ない課題を検討し今後の支援体制に生かしていく役割があります。

プレステージ



取り組みがあります。視察や検討を十分に行い法人としての方向を決定して向かうことができればと思います。

また、同時にこれらを取りまとめていく為に法人本部の再編も行いました。働きやすい職場に向けてまだ十分ではありませんが、少しずつ機能していければと思っております。

これらの取り組みのキーワードが「みんなで考え力を合わせて」です。

考えてみるとハケ岳名水会のこれまでの歴史もこの言葉の連続であったと思います。いかに大勢の人たちと同じ目標を持ち力を合わせて取り組めるか。また、夢や課題を臆すことなく語り合ってお互いの強みを生かし、助け合いそ

の実現に向けて歩めるか。今後に向けての土台づくりの年ではないかと思っております。

厳しいニュースや社会不安が溢れるこの時代に、しっかりと希望を持ち、脈々と続いていく暮らしやささやかな喜びを日々の中で見出していかけるか。平成二十七年度は始まったばかりです。これまでの支援を振り返りながら、日々の語らいの中で新たな流れを生み出していかれたらと思っております。

是非、みなさんの力や想いを貸してください。宜しくお願いいたします



のほら楽団

のはら楽団 いざ始動!

平成二十六年十月よりスタートしたのはら楽団。あつという間に半年が過ぎました。去年の今頃は、教室に机や椅子などがそのままの小学校の様子をみて、「ここでのように、のはら楽団がスタートするのか…」と実際私には想像が付きませんでした。

まずは夏ぐらいから、作業の時間だけ移動して仕事を始めました。そこで作業することによって徐々に作業しやすい空間ができてきました。そうやってくると「あれも必要だ」とか「この物品は使える」など、職員と利用者が一緒に考えて作っていく場面もあり、少しずつイメージができていきました。また、どの作業をのはら楽団でするのか何度も話し合いました。最終的に決まった作業はクラフト・リサイクル・農場作業(食品加工)・おやつ工房になりました。改築工事と平行しての

引越しただったので、工事が終わればすぐ物品を移動して場所作り・・・をくり返し、開所式前日まで引越しの段取りをしていたのを思い出します。おやつ工房は工事の都合で間に合わなかったのですが、クラフト・農場作業部屋・食堂・アト・個室・職員室と部屋も準備が整い、無事に開所式を迎える準備ができました。

十月一日、体育館で行われた開所式は、来賓の方にたくさんお集まりいただき、職員も利用者も緊張感がありつつ、温かい空気の流れた会でした。

開所式が過ぎてからもバタバタの毎日。足りない物品が出てきたり、給食を食べる場所が変わったりと職員も利用者さんも慣れるまで時間がかかりました。そんななかでも、就労系の人たちは、のはら楽団を拠点に、のはら、豆の花、豆腐、おやつとそれぞれの場所です仕事をして、休憩などで戻ってくるといった流れができ、「仕事が集中してできるようになった」と言う人たちが

増えました。生活介護の方は、ゆっくり時間をかけて移行する形をとり、場所を知るところから始め、作業や活動、給食・おやつを食べるという動きをやっている中で移行してきました。今ではみなさんがのはら楽団の活動にも慣れ、体調を崩すことなく来所されています。まだ、完全移行していない人たちもいますが、時期と様子をみながら進めています。

半年以上たって、のはらのいいところは、何かな?と考えると・・・昼と夕方のみんなが集まる時間に食堂で年代を問わない洋楽・邦楽の音楽が流れていること、その中で就労の方・生活介護の方それぞれ利用者さんと職員の笑い声が響き渡っていることかなと私は思います。これからは、もっと環境整備に力を入れ、作業や活動をしやすい場所を作り、過ごしやすい共有スペースを作っていきたいと思っています。

(のはら楽団 野中恵巳)

おとなの放課後クラブ

二〇一二年度の秋口、支援学校高等部三年生は第二期の現場実習を控え卒業へのカウントダウンが始まり新しい生活の準備で慌ただしくなりだした頃、卒業を控えた保護者のお二人から個々にではありましたが同じ内容のご相談を受けました。雑談の中で「キッズクラブで今まで続けてきたお習字や音楽活動が卒業を境になくなってしまいうのは残念です。」「お友達とのお出かけや普段できない体験が社会人になってからも出来る嬉しいです。」と、仕事や生活とは別に、卒業後の余暇活動の時間が少なくなることに對しての不安を伝えて頂きました。

このお二人のご相談を受け、二〇一三年四月から成人向けに文化的活動や年齢に応じた余暇活動を企画したのが「おとなの放課後クラブ」です。活動のコンセプトを

① 自分の時間（仕事が終わった後や休日）をより楽しく過ごせるような企画を提案します。

② 自分がやりたいことを実現できるようなお手伝いをします。

③ この地域で暮らす仲間との交流を大切にします。
の三つに決めました。



2013年12月忘年会の様子
べるがのコテージにて

初年度から参加者は積極的で、こちらが希望を聞くと予想をしていなかったビアガーデンやホタル観賞など楽しい企画を提案して頂きました。

また、ボランティアの先生方のご協力で習字・サッカー・和太鼓が始まりました。

二年目以降は参加者が増えてきたため、八ヶ岳名水会の事業所と連携し、利用者・支援者・活動の幅が広がりました。現在は月に八つ程の企画を実施し、温泉・カラオケ等定番の企画もあれば、花見・花火・忘年会等の季節に

合わせた企画もあります。

これから大事にしていきたいのは継続した活動にしていこうことです。参加者の皆さんは学校を卒業するまでに様々な経験をされて、社会に出ると自由な時間は増え、活動の選択肢は無数に増えます。

しかしながら、あらゆる余暇活動の中から自分でやりたい事を見つけ、実際に行動に結び付けるのが難しい方もいるのが現実です。

最終的には参加者同士で話し合い、企画から計画、実施ができれば長く続くと期待しています。

(NPO法人 杜の風 高橋昌也)



2015年5月和太鼓発表の様子
小さな森のコンサートにて

女取の泉

私たち、菜の花の新人です！

今年、春を迎えるころに日野春の生活介護事業所の菜の花に、五人の新人たちが入りました。皆さん五十歳以上の熟年ボランティアです。どうぞよろしくお願い致します。



「初めまして。この度二月より菜の花に入りました齊藤初恵です。今までの経験を活かし、先輩方の指導のもと、利用者様の力になれるよう全力で頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。」

齊藤 初恵

「四月より菜の花に勤めさせていただいております。まだまだ分からない事ばかりですが、一日も早く様々な事を覚えて、利用してくださる皆様が少し

でも過ごしやすいようになるように努めていきたいと思っております。ご指導の程よろしくお願い致します。」



藤森 和子

「老いに逆らい、菜の花の施設内をドタバタ動きまわっています。若いスタッフさん、利用者さんにかこまれて勉強の毎日です。少しでも皆さんのお役にたてたいと思います。頑張っています。よろしくお願い致します。」

藤森 多恵子

「人との関わりを持った仕事をしたいと思い、今年の一月中旬より菜の花で働くことになりました。初日は不安と緊張で何をしたら良いのかわかりませんでした。初めて仕事に就いた時の事

を思い出しました。あの時

もこんな気持ちで一杯でした。介護の仕事に携わって

四か月が過ぎようとしています。まだ不安と緊張の毎日です。つくづく介護の仕事の難しさを痛感しています。菜の花には優秀な専門職のスタッフが沢山おられます。私も早く初心者マークが取れるよう仕事に励みたいと思います。最後に〈一期一会〉ということわざがあります。今日は今日しかないので、だからこそ利用者さん、スタッフと一緒に寄り添っていききたいと思います。」



小野 美知子

この欄は、毎回、八ヶ岳名水会で働く職員やボランティアの方が、交替で書き綴るコーナーです。女取の泉は、長坂小荒間の森の中にある美しい泉です。

ボランティア通信

星の里様奉仕作業によせて

私ども長坂民生児童委員協議会は、31名の委員で構成、三つの部会（障がい者福祉部会・高齢者福祉部会・母子児童福祉部会）に分かれ、年間活動計画の中で、施設、学校、保育園等の訪問を積極的に行っております。

毎年9月は全体の奉仕活動として、星の里様の環境美化活動を計画しており、利用者、職員の皆様に少しでも気持ち良い快適な生活をして頂けるようにと全員で汗を流し、奉仕活動の尊さを体験しております。

今年は晴天に恵まれ、屋外の垣根の剪定、庭の草取りを行い、終わった後の出来映え、達成感に心地よい瞬間を体得致しました。

これからも機会あるごとに奉仕作業

の意義を感じながら続けさせていただこうと考えております。

北杜市長坂民生児童委員協議会

堀込 一幸



私は星の里にボランティアに行きました。主にお祭りの準備をしたり、利用者さんたちとお話をしたりしました。利用者さんたちが積極的に話しかけてくださって、とてもうれしかったです。午後からのお祭りでは、利用者さんたちが楽しそうにしていたので、準備をしつかりやって良かったなと思いました。

大阪にいる私のおじもこのような施設に通っています。きつとみんなで助け合って頑張っているのだと思います。

長坂中学校一年生女子



これまで薪づくり、草刈り、田植え、稲刈り等手伝わせてもらいました。日野春學舎としてスタートして、様々な団体と提携し、いろいろな活動ができて楽しみです。

利用者さんにも気軽に声をかけていきたいと思えます。

長坂下条 千葉 岩治

ボランティアの方と一緒にいる田植えの様子です。



『みえないことづけ』今年も開催

平成二十七年三月二十八日から四月二日まで、葦崎市にあるニコリ一階の市民ギャラリーにて菜の花利用者作品展示会『みえないことづけ』が開催された。

本展示会は、菜の花に通う利用者さんたちが日々の活動において制作した絵画や書、造形物などの発表の場であり、菜の花の活動を知ってもらう場でもある。

今回で五回目の開催となり、菜の花の恒例行事となっている。

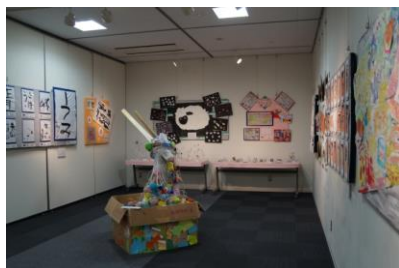
また、ポスターに使われている絵も利用者さんの作品である。このポスターの絵について御本人に話を聞いてみた。



会場入り口



展示の様子



A Q
あなたにとって海とは何ですか？
「母です。母なる海です。」

A Q
いつから海が好きなのですか？
「小学生のころ、親戚に海へ連れていってもらったときからです。」

A Q
この絵のテーマはなんですか？
「去年の夏に菜の花の外出で行った湘南の海です。そのときの思い出の絵日記です。」



どの作品も利用者さんそれぞれの個性が出ていて、とても見ごたえのある展示会となった。
来年以降もこの展示会は継続していきたいと思う。

『みえないことづけ』ポスター



〈菜の花 穂坂 雄太〉



ありがとうございます！

○題字を書いてくださった方
後援会員 小林 元久 様

○表紙絵を描いてくださった方
菜の花利用者

小林 慶子 様
中島 睦美 様
木下 夏子 様
素敵な字と絵をありがとうございました！

法人職員募集中！

ハケ岳名水会の職員を募集しています！
常勤・非常勤問わず募集しております
のでお気軽にお問合せください。

問い合わせ連絡先

0551-32-7355
ハケ岳名水会（星の里 小澤）
0551-32-0035
ハケ岳名水会（日野春學舎 志村）

編集後記

今から五十年前、夢の高速鉄道と謳われた東海道新幹線が開業した。私が物心ついた頃には既にその線路は拡充され東北や九州、信州にまでもその雄姿を見ることが出来た。それまでとは想像を超える速さと利便性に人々は魅了され、国民の生活の一部になるまで、そう時間はかからなかったはずだ。その車内で発生した痛ましい事件に言葉を失った。あんなに安全で快適な乗り物でなぜ？最初はそう思ったことを覚えている。

時間が経つにつれ色々なことが報道されてきた。ひとり暮らし、年金生活、孤独。聞けば聞くほど今度は「地域は？」「行政は？」という疑問が湧いてきた。我々が日々携わっている人たちも個々に問題や悩みを抱えて暮らしているはずだ。ちょっとした言動や仕草から異変にいち早く気付いてあげることが支援の第一歩なのではないかと改めて考えさせられた。

今回の事故で不幸にしてお亡くなりになった方の御冥福を心から祈ると共に、負傷された方々に謹んでお見舞い申し上げます。

錦

社会福祉法人 ハケ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355

FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@coast.ocn.ne.jp

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/>

広報委員会スタッフ

錦見祐治（陽だまり） 廣瀬政光 小池翔 穂坂雄太 浅利美衣（以上菜の花）

伏見祐司 相吉謙輔（以上星の里） 阿部通洋 村瀬成美（以上春の陽） 望月杏沙美（ぽーら）

立川瞳（相談支援） 坂本むつみ（以上事務局）

